2013 年度「海洋問題演習」Ⅰ～Ⅳ履修学生および
事例研究（海洋問題演習Ⅴb）履修予定の学生の皆様

冬学期は、3 つのテーマ「場の利用」「資源の利用」「安全な利用」に分かれ、グループ討論して頂きます。下記の課題の概要をよく読み、希望順位（前・後半ごとに第 1、2、3 希望）を付け、9 月 18 日（水）15：00 までに education@oa.u-tokyo.ac.jp まで Email 添付でお送りください。

氏名（　　）学籍番号（　　）
所属研究科・専攻（　　）
学生同士で連絡可能なメールアドレス（　　@　　）

前半（10/7～11/25）：　[　　]内に数字 1～3 を入れること。

[　　] 場の利用	**『海洋基本計画』と海の諸問題** 本セッションでは、本年 4 月に閣議決定された『海洋基本計画（http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/kihonkeikaku/130426gaiyou.pdf ）』に掲げられた海の諸問題とその解決の方向性・実現可能性等について、グループで事例研究を行う。具体的な事例研究のテーマは、受講者と相談しながら決めたい。例えば、①海洋環境の保全と海域の水産資源、エネルギー・鉱物資源等の海洋資源開発とをどう「調和」させるか、②水産業や資源関連産業等、海洋産業の振興と創出、そして国際展開をどう図っていくか、③沿岸域の再活性化・自然災害への対策・地域住民の利便性向上等を図る観点から、陸域と海域をどう一体的かつ総合的に管理していくか等、様々なテーマがあり得、柔軟に受け付ける。
[　　] 資源の利用	**海底鉱物資源開発をめぐる課題** 現在、メタンハイドレート、海底熱水鉱床、コバルトリッチクラスト、レアアース泥といった様々な海底のエネルギー資源・鉱物資源が期待を集めており、日本政府が推進する海洋基本計画もその開発を基本方針の一つとして挙げている。しかしながら、こうした新たな海洋資源の開発のためには、商業的開発に向けた技術の確立はもちろんのこと、海洋環境の保全との調和、エネルギー政策全体における位置づけ、国際的な制度との関係など検討すべき問題が多数存在している。科学技術の役割、国際法・国内法上の課題、資源・エネルギー問題の政治的・社会的文脈などを踏まえつつ、海底鉱物資源開発の現状と今後について考える。
[　　] 安全な利用	**離島の課題と自立的発展方策** 離島は、日本の領域、管轄海域の保全等の重要な役割を担っているが、厳しい自然的社会的条件の下に置かれているため、解決が必要な課題も多い。その課題を解決し、離島の自立的発展を促すため、中央・地方の政府も対策を講じてきているが、個々の離島の地理的特性、自然環境、文化、産業基盤、生活事情、住民意識等は実に多様であるため、それぞれの離島の住民自らがその実情に応じた取組を積極的に展開することが欠かせない。このセッションでは、離島で実際に行われた取組を幅広く把握する一方で、個々の離島の実情や課題を掘り下げて、その課題の解決や自立的発展に向けた方策についてディスカッションを行う。

後半（12/2～1/20）：　[　　]内に数字 1～3 を入れること。

[　　] 場の利用	**国内外の沿岸域の問題と対策** 海洋において沿岸浅海域は最も生物生産が高く、かつ藻場、干潟、珊瑚礁に代表される様に極めて生物多様性の高い海域である。さらに、水産業を始めとする産業やレクリレーションなど文化的側面においても人間活動と密接に関わっている。本セッションでは、沿岸域における人間活動に起因する環境問題の実態と環境改善のための政策や制度の概要を理解し、その上で、東京湾・有明海・瀬戸内海など、海域ごとに異なる物質循環に関わる現在の問題と政策を含む対策について、いくつかの事例を選んで調査し、有効な対策を考える。
[　　] 資源の利用	**商業利用がされている海洋生物種に対するワシントン条約規制** 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約(CITES)において、商業利用がなされている海洋生物に対し国際貿易の制限が導入される例が存在する。例えば、2007 年の CITES 締約国会合において付属書 II への掲載が決定されたヨーロッパウナギでは、2009 年 3 月にその措置が発効した。また，最近ではニホンウナギを含むウナギ属全種について，同様の措置を提案する動きがある。本措置がもたらす生物資源学的な効果、経済的な影響、WTO との整合性などを考察する。
[　　] 安全な利用	**津波防災と沿岸域の安全な利用** 東日本大震災における甚大な津波災害は沿岸域における津波防災の重要性を再認識させた。一方、沿岸域は港湾・漁港・漁場など海洋における経済活動の中心であり、住民の日常生活に十分配慮した開発を行わなければならない。港湾域における安全性と利便性という背反する課題を両立して解決することは、被災地域の復興および津波被害が今後予測される地域の発展に欠かせない。本セッションでは沿岸域におけるこれまで津波防災とその結果を調査し、これからの津波防災に向けた実効的な対策とそれを可能にする政策の提案を目指してディスカッションを行う。

※グループ発表は、第 1 回講義（10 月 7 日）に行います。希望が偏った場合、ご希望に添えないことがございますが、予めご了承ください。前半と後半で異なるテーマで討論して頂きます。